令和3年度

大学入学者選抜における好事例集

令和4年8月
文部科学省高等教育局

目次

はじめに	4
令和3年度大学入学者選抜における好事例の試行的な選定結果について（選定委員会所見）	5
別添　大学入試のあり方に関する検討会議（令和3年7月8日提言）（抄）	6
北海道大学「総合型選抜」選定区分：エ	7
小樽商科大学「グローカル総合入試」選定区分：ア	8
宮城大学「総合型選抜」選定区分：イ エ	9
東京外国語大学「英語スピーキング試験」 選定区分：ア	10
東洋大学「英語外部試験の利用」選定区分：ア	11
金沢大学「KUGS特別入試」「超然特別入試」選定区分：エ	12
藤田医科大学「ふじた未来入試」「一般入試」選定区分：イ	13
京都大学「特色入試」選定区分：イ	14
京都工芸繊維大学 「ダビンチ入試」選定区分：ア イ	15
奈良女子大学「探求力入試『Q』」選定区分：イ	16
島根大学「へるん入試」選定区分：エ	17
高知大学「総合型選抜Ⅰ（医学科）」選定区分：イ	18
長崎大学「一般選抜」選定区分：イ	19
国立六大学連携コンソーシアム「ペーパーインタビュー」 選定区分：エ	20

目次

熊本大学「肥後時修館」選定区分：エ	21
東京電機大学 選定区分：ウ	22
東洋大学 選定区分：ウ	23
福岡県立大学 選定区分：ウ	24

本件担当

文部科学省
高等教育局大学振興課
大学入試室入試第四係

連絡先

TEL ：03-5253-4111
（内線4915,4757）
MAIL:
nyusichosa@mext.go.jp

※選定区分:

ア	総合的な英語力の評価・育成
イ	思考力・判断力・表現力の評価・育成
ウ	多様な背景を持った学生の受入れへの配慮
エ	高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進
オ	文理融合の推進やその他の好事例

はじめに

事例集作成の目的

- 令和3年7月に取りまとめられた「大学入試のあり方に関する検討会議提言」においては、記述式問題の出題や総合的な英語力の育成・評価、多様な背景を持つ学生の受入れなどについて、他大学の模範となる先導的な取組を推進するため、客観的なデータを踏まえたピアレビュー等に基づき好事例を認定し公表することが提言されています。
- これを踏まえ、文部科学省において、令和3年10月に「大学入学者選抜における好事例選定委員会」を設置し、高大接続改革や大学入学者選抜方法の改善を一層促進する観点から、実態調査の結果等を踏まえ、他大学の模範となる好事例を試行的に選定し、本事例集を取りまとめました。

好事例の選定方法

調査対象	申請件数	選定件数
短期大学&国公私立大学	84件	18件

- 各大学から好事例と考えられる取組について申請いただき、提出された書面をもとに選定委員会において審査を実施しました。
- 詳細については、次ページの選定委員会所見をご覧ください。

Go

令和3年度大学入学者選抜における好事例の試行的な選定結果について（選定委員会所見）

- このたび、各大学からいただいた84件の申請の中から他大学の参考となり得ると考えられる取組を18件選定し、好事例集として取りまとめましたので、入試についてご検討する際の参考にしていただけますと幸いです。
- 選定方法としては、各大学から好事例と考えられる取組について申請いただき、提出された書面をもとに審査を行いました。申請いただいた大学には深く感謝申し上げます。また、今回、特色あると思われる取組であっても、提出された書面上から十分に内容を把握できなかったこと等により、残念ながら選定に至らなかった取組が多数ございましたが、いずれの大学も様々な工夫に取り組まれていることがうかがえ、入学者選抜に対するご努力やご熱意に対し敬服する次第です。
- さて、選定にあたっては、「大学入学者選抜のあり方に関する検討会議提言（R3.7.8文部科学省）」（別添参照）を踏まえ、特に推進が求められている

ア	総合的な英語力の評価・育成
イ	思考力・判断力・表現力の評価・育成
ウ	多様な背景を持った学生の受入れへの配慮
エ	高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進
オ	文理融合の推進やその他の好事例

を選定の対象項目として設定しました。

- さらに、左記の項目について、学力の3要素を適切に評価・判定するとともに、高校での学びを大学での学びに繋げていくような入試が行われているかという視点から、例えば…

  - □ 求める能力や測定方法を明示し、受験生に対して、高校でどのような学習や活動をすればよいのか分かりやすく説明しているか
  - □ 求める能力を実際に測定できていることを示す検証結果（エビデンス）があるか
  - □ マンパワー等を含めて無理なく継続できる体制・仕組となっているか
  - □ 新規性・先進性（従来の取組の発展形を含む）があり、他大学の参考となり得る工夫が見られるか
  - □ 入試だけでなく入試前後の教育を含め、高校での学びから入学後の学びまでが有機的に繋がっているか

  等といったことが重要であると考え、これらを含めて選定の観点を設定しました。

- 一方、選定の過程では、成果の検証に関する情報が少なかったり、判定基準等について非公開としている大学が多いなど、好事例として選定すべきかどうかを客観的に判断するには情報が不足していたという課題もありました。
- 本委員会では、試行的な選定の経験を踏まえ、令和4年度大学入学者選抜における好事例の選定に向けて調査項目や選定の観点の見直しを行い、更なる充実に努めてまいります。また、大学から提出された書面をもとに審査を行いますので、各大学におかれましては、他大学の参考となる情報やデータについて可能な範囲で詳細に書面に記載いただけますと幸いです。

別添　大学入試のあり方に関する検討会議　提言（令和3年7月8日）（抄）

第５章　ウィズコロナ・ポストコロナ時代の大学入学者選抜
5．大学入学者選抜の改善に係る実施・検討体制

（2）文部科学省による選抜区分ごとの大学入学者選抜実態調査の定期的実施・公表・分析

- 本検討会議は、選抜区分ごとの詳細な実態調査を行い、データに基づく丁寧な議論を行ってきたが、第1章で整理したように、今後もデータやエビデンスを重視した意思決定を行うことが重要であり、そのためには普段より実態を調査しておくことが必要である。このため、今般実施したような文部科学省による大学入学者選抜の実態調査については、大学の負担にも留意しつつ、大学入試政策立案の基礎的な資料として、専門家の助言に基づき、定量的な把握の充実を含めて調査票の改善を図りつつ、大規模な調査を定期的に行うとともに、特に必要な調査は毎年度実施することが適当である。

（3）大学入学者選抜等の改善に係る好事例の公表及びインセンティブの付与

- これまで述べてきた記述式問題の出題や総合的な英語力の育成・評価、多様な背景を持つ学生の受入れ、入学後の教育との連動や文理融合等の観点からの出題科目の見直し、入学時期や修学年限の多様化への対応など、大学入学者選抜と大学教育の一体的な改革については、他大学の模範となる先導的な取組を推進することが重要であり、ペナルティを課すという方法ではなく、積極的な取組を促進・評価する観点から、推進策を講じる必要がある。
- このため、既に述べたように、上記（2）で把握した客観的なデータを踏まえたピアレビュー等に基づき好事例を認定し公表するとともに、認証評価や高等教育の修学支援新制度の機関要件に係る教育活動の情報公表、大学ポートレート等の既存の様々な枠組みにおいても、大学入学者選抜の改善状況や優れた取組が適切に公表され、社会から評価される方策を講じることが有益と考えられる。
- さらに、上記の好事例の認定も適切に活用しつつ、インセンティブの付与を検討すべきである。例えば、国立大学については、第4期中期目標期間における国立大学法人運営費交付金の在り方についての検討状況も踏まえ、優れた取組も促進・評価することができるよう検討するべきである。私立大学については、私学助成のうち、特色ある取組や大学改革を推進する支援スキームを活用し、評価項目の見直し等により、他の模範となる優れた取組を促進することを検討すべきである。また、公立大学については、好事例の認定結果を設置者や設立団体に対し、法人（大学）評価や資源配分の参考に活用することができる旨通知することを検討すべきである。

北海道大学 「総合型選抜」

－高校による「コンピテンシー評価」結果を活用した総合型選抜入試－

選定区分：**エ 高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進**

参照：北海道大学　総合型選抜
https://www.hokudai.ac.jp/admission/faculty/ao/

令和3年度入学者選抜概要

選抜区分：総合型選抜
対象学部：医学部（医学科）、水産学部
募集人員：25人（学部等全体の約９％）
入学者数：15人（志願倍率2.4倍）

【選抜方法】

- 第１次選考：調査書、**コンピテンシー評価（高校教員による多段階評価）**等により選考を行う。
- 第２次選考：第１次選考に合格した者に対して、面接を行う（医学部医学科ではあわせて課題論文を課す）。ただし、令和３年度大学入学共通テストで受験を要する教科・科目の得点が、条件を満たさなければ最終合格の対象とならない。

導入に至る背景・課題等

- 急速に変化する社会の中で、今世の中に存在していない新しい方法論や考え方を生み出す力や、さらに新たに生まれる課題を見出し解決する力を持つ人材が強く求められている。
- 基礎的な学力や技能、思考と判断力に加え、主体的な行動を起こす力や新しい物事にチャレンジしていく強い意欲が極めて重要。
- 令和２年度入試から、**高校によるコンピテンシー評価を一部の募集単位（医学部医学科、水産学部）で先行実施**。
- 令和４年度入試から総合型選抜の選考方法や募集人員を大幅に変更し、**新たな総合型選抜「フロンティア入試」**として実施。

アドミッション・ポリシー等との関係

- コンピテンシー評価の**評価の観点、評価の領域、ルーブリック**は、各募集単位のアドミッションポリシーに沿って本学が設定。
- 各募集単位が求める能力を、日常の高校生活を一番よく知っている高校教員がコンピテンシー評価し、選考に使用。

制度設計のポイント

- 大学や社会での新しい価値の創造を目指し、新しい時代を生き抜く素養と、本学で学びたいという強い意志を持つ学生を募集。
- 高校教員が評価することにより、**調査書からは読み取れない、本学の学部・学科等が求める能力や資質等について、選考に利用。**
- 高校における特別な実績や活動ではなく、多様な活動の中でどのような行動をとっていたのか、どのような成長があったのかに焦点。
- 高校から提出された各評価の根拠資料を確認し、**妥当性が認められない場合は、評価点を補正**。
- コンピテンシー評価は、一般選抜に比べて高校側に評価の負担がかかることから、継続して**評価者用マニュアルの改善**を図っていく予定。

実施体制

- コンピテンシー評価実施のため、書類選考や筆記試験、面接等を実施する募集単位とは別に、以降に示す業務を主に行うこととして、**アドミッションセンターにアドミッションオフィサー２名を配置**。
  - ・コンピテンシー評価のシステム設計
  - ・高校から提出されたコンピテンシー評価の妥当性確認
  - ・評価点資料の作成
  - ・選考結果の分析、入学後の追跡調査
- **高校教員は、本学のシステムにコンピテンシー評価を登録**。

成果の検証

- 先行実施している医学部医学科及び水産学部では追跡調査サンプル数としては少ないため、**令和４年度入学者から追跡調査を実施**する予定。

好事例選定委員会委員コメント

- **総合型選抜の１つの評価方法を示す**。
- 高校での日常的な学習を丁寧に評価し、大学教育へと繋げる**意欲的な試み**。
- 評価基準である**ルーブリックは高校向けに公開**されており、**高大接続の実質化**を目指しているが、より一層の情報公開が望まれる。
- 今後、入学者に求める能力を実際に測定できていることを示す検証が行われることを期待する。

北大コンピテンシー評価マトリックス　プロトタイプ

学力の3要素	評価項目	教科1	教科2	教科3	教科4
知識・技能	情報へのアクセスと選択	○	○		
思考力・判断力・表現力	疑問を持つ姿勢	○	○		
	情報の関係性の理解と把握	○	○		
	課題解決への現状把握	○	○		
	論理的なプロセスの設定	○	○	○	○
	生じる問題の予測と対応	○	○	○	○
	意図や本質を理解する	○	○		
	表現する	○	○		
学びに向かう力・人間性（主体性・多様性・協働性）	挑戦する姿勢	○	○	○	○
	柔軟な発想と自己変容			○	○
	他者との相互関係			○	○
	異なる価値観の受容と尊重			○	○
	チームで協力する			○	○
	リーダーシップ			○	○
	自己研鑽の姿勢	○	○		
	世界の現状と自己との関わり	○	○	○	○

○印部分は
各々４段階程度の
ルーブリック評価を
WEBシステムを通じて
高校から提供を受ける。

小樽商科大学 「グローカル総合入試」

－英語で自己表現ができることを重視した入試－

選定区分：**ア 総合的な英語力の評価・育成**

参照：小樽商科大学　受験生サイト
https://nyushi.otaru-uc.ac.jp/examination/guideline/

令和3年度入学者選抜概要

選抜区分：総合型選抜
対象学部：商学部
募集人員：20人（学部全体の約４％）
入学者数：19人（志願倍率2.15倍）

【選抜方法】

- 第1次選抜：**英語で作成した志望理由書や学習計画書**及び**民間の英語資格・検定試験の成績等**を総合的に審査
- 第2次選抜：**英語を主体としたグループディスカッション及び口頭試問**

導入に至る背景・課題等

- 平成27年度に**「グローカルマネジメント副専攻プログラム」**を導入し、平成31年度から**ギャップイヤープログラム**を導入する等、**「北海道経済の活性化に資するグローカル人材」の育成**というミッションを達成すべく、様々な教育の取組を進めた。
- これらを発展させた主専攻プログラムである**「グローカルコース」**を令和３年度から開設。このコースに所属する学生を選抜するために新たな入学制度が必要と考え、**「グローカル総合入試」を新設**。

アドミッション・ポリシー等との関係

- ディプロマ・ポリシーにおいて、豊かな教養と外国語能力を基礎とした深い専門知識を有し、グローバルな視点から地域経済の発展に寄与し、広く社会に貢献できる人材の育成を教育の目的としている。
- そのため、アドミッション・ポリシーにおいて、**課題解決能力や多様な人とのコミュニケーション能力、英語を用いた学習意欲**について定めている。

制度設計のポイント

- グローカルコースでは、入学後に英語で専門科目を学ぶ等、**英語でのコミュニケーション能力**が求められるため、**英語での自己表現ができる受験者を選抜**することを目的。
- グローカル総合入試は**一般枠・理系枠と枠別に募集**し、多様な人材を確保。
  - ・一般枠は、日本の高校に在籍している者に加え、外国において学校教育を受けた者も出願対象。
  - ・理系枠は、一般枠と比較して英語のスコア基準を緩和し、その代わりに口頭試問において数学の知識を問う。
- ディプロマポリシーであるグローカル人材育成の手段の一つとして、グローカル総合入試による合格者の中から選抜のうえ、**入学を１年間猶予し、入学前に留学を行うギャップイヤープログラムを実施**。

実施体制

- 総合して判定する書類審査を第一次選抜とし、英語の運用に関する能力を測りつつ、**口頭試問人員を削減することで、教員の負担を軽減**。
- 第二次選抜は、**4人の教員が2つの試験室を用いて**グループディスカッションと口頭試問による試験を**1日で実施**。
- 短時間で受験者の能力を判断する必要があることや、英語での口頭試問を実施するため限られた教員しか対応できない等、一部教員の負担が増加していることが課題。

成果の検証

- 令和３年度新設のため、今後、効果の測定、調査を実施する予定（スコアの伸びを経年的に追跡調査する等）。

好事例選定委員会委員コメント

- 英語４技能のうち**「書く」「話す（やり取り）」「聞く」の評価に工夫**がある。
- **入学前のギャップイヤープログラムの導入は先進性**があり、**入学後のグローカルコースでの学びと連続性**がある。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で、実際の留学ではなくオンライン留学で代替しているようで、工夫して実施しているとの見方もできる一方、本来のねらいをどの程度実現できているか不明な部分はある。
- 今後、入学者に求める能力を実際に測定できていることを示す検証が行われることを期待する。

小樽商科大学グローカルコースの概要　2021年度入学生～

【教育目標】
地球規模の視野で学び，異文化理解力に優れ，卓越した言語コミュニケーション能力を活用して，複雑化する地域社会の諸問題を解決するための資質を有する人材の育成を目標とする。

★想定する修了生の就職先：
グローバル企業，官公庁・企業の国際関連部署，観光・サービス関連業者，国際公務員，シンクタンク，など

開始時期	2021年度入学生～
位置づけ	主専攻
定員	１学年：２０名
所属	入学時～ （学部４年間を通じたグローカル教育）
留学	原則必須 （入学前）ギャップイヤープログラム　or（初年次）事情科目
選抜	★独自の入学者選抜；グローカル総合入試（平成32年度に実施） ■総合型選抜（現行のＡＯ入試） ■選抜方法：英語力（４技能）とコミュニケーション力を中心に評価 ■合格者のうち希望者はギャップイヤープログラムに参加可能（定員５名）

宮城大学 「総合型選抜」

－高校から大学への「架け橋」となる入試－

選定区分：イ 思考力・判断力・表現力の評価・育成　エ 高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進

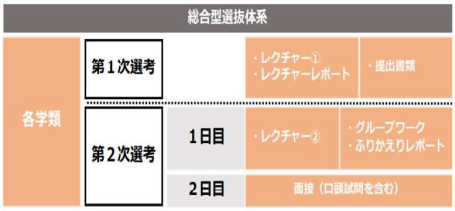
参照：宮城大学　高大連携
https://www.myu.ac.jp/high-univ/

令和3年度入学者選抜概要

選抜区分：総合型選抜
対象学群：看護学部、事業構想学部、食産業学部
募集人員：48人（学部全体の約11%）
入学者数：65人（志願倍率約4.1倍）

【選抜方法】

- 第１次選考：講師によるレクチャー①（あるテーマに関する資料や事例の紹介・説明等）の受講後、レクチャー①の内容に関するレポート（設問形式）を作成。**レクチャーレポートを評価した成績、自己申告書等の出願書類の内容を総合的に判定。**
- 第２次選考：１日目は、講師によるレクチャー②（レクチャー①のテーマを踏まえた内容に関する資料や事例の紹介・説明等）の受講後、レクチャー②に関連するテーマについて、少人数のグループで議論。その後レクチャー②から一連の内容を振り返りレポートを作成。
  ２日目は、面接。**レクチャー②、グループワーク、振り返りレポート、面接を評価した成績、自己申告書、調査書等の出願書類の内容を総合的に判定。**



導入に至る背景・課題等

- 変化する社会に対応し、次の10年も輝いていける大学をめざして、学生一人ひとりの持つ未来への可能性をしっかりと育むことを目的に、学部・学科制から学群・学類制への組織の改編、基盤教育の骨太化を進めてきた。
- 更に、**高校等との「架け橋」となる入試を実現**するため、平成29年度入学者選抜から「AO入試」を導入し、令和3年度入学者選抜に「総合型選抜」とした。

アドミッション・ポリシー等との関係

- アドミッションポリシーにおいて、大学教育を通じ、「高い人間力を備え、**広く深く学び続ける力を基盤**として、専門的な知識や技能を身につけ、将来にわたって地域社会の進歩に柔軟に対応し、それに貢献できる能力を備えた人材」を育成するとし、**入学者に求める能力として、高校までの「偏りなく幅広く、継続した学習」の内容をしっかりと身につけていること**が望まれるとしている。
- 「総合型選抜」においては、**高校等までの学習に基づく学力の基盤**や**高校等での探究的活動に裏付けされた課題発見・解決能力**に加えて、自身の興味や関心に基づいた、志願学類での学修に対する強い意欲や高い資質を評価している。

制度設計のポイント

- **本学募集人員全体の約１割**を「総合型選抜」の枠としている。
- 高校等での、**総合的な学習（探究）の時間や各教科等での問題解決型の活動が発展的に繰り返される探究学習**、互いの考えを伝え合い自身の考えを発展させる等他者と協議して課題を解決する学習、自ら得た情報を分析・評価してまとめ表現する学習等の成果を重視。
- 選考が２回あり、模擬講義、レポート、グループワーク、面接、口頭試問等、作題や採点、提出書類の確認、試験実施等、運営に負担が生じている。また、高校等への聞き取り調査においても、高校等や志願者本人に負担が生じるとの声がゼロではない。
- この課題への対応として、**作題体制の強化**や**ルーブリックの精緻化、試験実施マニュアルの作成**等により多くの教職員が運営に携われるような仕組みを整えるなど、毎年改善を進めている。
- また、高校等や志願者への丁寧な説明や入試ガイド・説明動画の作成により高校等や志願者に大学のメッセージを理解していただくとともに、**試験日を可能な限り日曜日や土曜日の午後からの開始**とし、志願者の精神的負担、物理的負担を軽減するよう努めている。

実施体制

- 地域に根差した公立大学として、初等中等教育と高等教育の教育上の連携を図り、相互の教育の質を高めていくため、平成31年に**高大連携推進室を設置**。
- 大学見学・出前講義、大学での学びを体験し進学の動機づけに繋げるアカデミック・インターンシップ、高校における総合的な学習（探究）の時間の内容充実のための探究型学習の指導支援等を展開。**大学と生徒のマッチングの機会**ともなっている。
- また、総合型選抜の入学者へは、高校等から大学の学びへ円滑に移行してもらうために、**入学前教育プログラム**を実施。

成果の検証

- 募集人員の少ない選抜にも関わらず、**各学類でのリードオフマンとして活躍する学生**がでてきている。
- 平成29年度の導入以来、「総合型選抜（旧AO入試）」で入学した複数の学生が、**学会・コンペティション・コンテストにおいて賞を受賞**。
- 加えて、入学直後の1年生を対象とした検査においては、他選抜区分で入学した学生と比較し、**レジリエンス**（感情の制御、立ち直りの速さ、状況に応じ冷静に対応する力）、**コラボレーション**（相手の立場に立とうとする姿勢、他者と関わろうとする積極性）、**リーダーシップ**（自ら先頭に立って進める力、未知の物に挑戦する力、粘り強くやり抜く力）**について、より高い特性**があることが確認されている。

好事例選定委員会委員コメント

- これまでよく見られた、高校生と大学教員の連携だけでなく、**高校生と大学生の協働活動**、また、**高校と大学の教員同士の学びあい**など、地に足がついた連携の上での選抜が評価できる。
- **高校の学習と積極的に関わろうという姿勢**が伺える。高校教員とのカンファレンスやシンポジウムを開催したり、パンフレットを作成したり、**情報発信を積極的に行っていること**は、他の大学にとっても模範的な例になる。
- 今後、入学者に求める能力を実際に測定できていることを示す検証が行われることを期待する。

東京外国語大学 「英語スピーキング試験」

－ブリティッシュ・カウンシルと共同開発した英語スピーキングテスト「BCT-S」－

選定区分：ア 総合的な英語力の評価・育成

参照：東京外国語大学　英語スピーキングテスト「BCT-S」徹底解説！
http://www.tufs.ac.jp/NEWS/admission/211227_1.html

令和3年度入学者選抜概要

選抜区分：一般選抜（前期日程）
対象学部：国際日本学部
募集人員：35人
入学者数：34人（志願倍率約1.7倍）

- 学力検査の外国語において、**「英語スピーキング試験」**を導入。

導入に至る背景・課題等

- 2009年の学習指導要領の改定により、外国語のスピーキング能力が高校の教育において必須とされ、英語4技能を総合的に育成する方針が明記された。
- 中等教育における英語教育の実施状況、及び社会における英語の必要性・重要性を考えるとき、**大学入試において適切に英語４技能の能力を測定**することが必要。
- 日本における外国語学及び世界諸地域の地域研究の教育研究拠点である本学は、公平性の重視される大学入試においてスピーキングテストを行うには、個別試験での実施が最適と判断。
- イギリスの公的な国際文化交流機関である**ブリティッシュ・カウンシルと共同で、英語スピーキングテスト「BCT-S」**（British Council TUFS - Speaking Test for Japanese Universities）**を開発**。

アドミッション・ポリシー等との関係

- 国際日本学部のアドミッションポリシーにおいて、選抜方法として、「英語スピーキング試験」を実施し**口頭による英語の表現力を問う**こととしている。

制度設計のポイント

- 試験問題の作成は本学、採点はブリティッシュ・カウンシルが行う。
- **学習指導要領に準拠し、日本の受験生にとって不利にならず**（文化的背景や高校生を取り巻く環境等）、**本学の学びに適した設問**（世界・言語への関心、コミュニケーション力等）を出題。
- スピーキング力単独の測定テストとして、他大学でも広く利用できる**汎用的なテストフォーマット**を採用。

実施体制

- **２セットの試験問題**の作成に要する時間は**約255時間**（ドラフト作成に約100時間、検討・修正・確認等に約155時間）。
- **CBT(Computer Based Testing)を活用**（受験生にタブレット、ヘッドセット、QRコード受験票を配付）。
- 通常の試験監督者とは別に、**総勢約70名に及ぶ支援スタッフ**を配置（支援スタッフには、ブリティッシュ・カウンシルによる事前トレーニングを実施）。
- 採点はブリティッシュ・カウンシルの採点チームが行い、**パートごとに採点基準を明確化し、異なる採点者が評価**を実施。
- **上級採点官によるモニタリング**を通じた質保証。
- 令和4年度選抜では、合否判定に間に合わせるため、**約1,500名分の解答を約3日間で採点。**

「英語スピーキング試験」導入

一般選抜前期日程

◆英語３技能（試験時間150分、300点満点）
【150点】リーディング（大問３題）
【 70点】リスニング　（大問２題）
【 40点】ライティング（リスニングを踏まえた要約）200語
【 40点】ライティング（意見論述）200語
※令和3年度はコロナ対応のため試験時間を90分に変更し大問を削減
※令和4年度から試験時間120分、250点満点に変更

◆英語スピーキング試験（試験時間12分程度、50点満点）
【 50点】スピーキング（４題）

成果の検証

- 過去の「英語スピーキング試験」の分析によれば、、他３技能の総合点との相関は必ずしも高いとはいえず、**スピーキング力を単独で測定することの必要性**が示唆。
- 「BCT-S」を経て入学した学生は、**留学生とともに学ぶ学部教育への適応力が高く、発言やディスカッション等の場で動じない学生が多い**。
- 令和４年度から**「LINGUA Test Center」を設置**し、試験結果の検証、入学者の追跡調査等を組織的に実施。

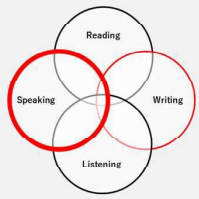
好事例選定委員会委員コメント

- **先進性**があり、**波及効果**は高い。
- **ウェブサイト等においてその概要を予め提示するなど、きめの細かい対応**が評価できる。スピーキングテストの概要やレベル別の対策のポイントなどを掲載してる点も参考になる。
- 外部試験でなく、**外部の力を借りての共同開発で筆記テストでは測りにくい力を評価**しようとしているのは、他校の参考にもなる。
- スピーキングテストのコンソーシアムなどを作り共同運営するなどの施策を検討されてはどうか。

本学前期日程試験の「英語」ではコミュニケーション力と総合的な英語力を問う

＜従来＞
Listening
Reading
Writing

＜追加＞
Speaking
↓
英語で発信する力



東洋大学「英語外部試験の利用」

選定区分：ア 総合的な英語力の評価・育成

参照：東洋大学の入試のポイント
https://www.toyo.ac.jp/nyushi/admission/point/

令和3年度入学者選抜概要

選抜区分：一般選抜（前期日程）
対象学部：全13学部
募集人員：3,244人
入学者数：2,098人（志願倍率約20.2倍）
※令和３年度選抜では、対象となる入試方式全入学者数2,098名のうち、英語外部試験利用者は1,257名。

【選抜方法】
- 全13学部の一般選抜の一般入試前期日程において、**「英語外部試験利用制度」**を実施。
- 外部試験のスコアは、一般入試では「英語」科目の得点に換算。

導入に至る背景・課題等

- 社会的にも「読む、書く、聞く、話す」のバランスの取れた総合的な英語力の育成が求められている中、本学独自の英語試験において測ることが可能なのは「読む」技能のみであり、「読む」技能についても、語彙数が他の外部試験と比較しても少ないという課題。
- 本学の教育改革の３つの柱である国際化を加速させるためには偏りのない英語４技能の習得が必須という課題認識から、大学の総合的な英語力育成の充実に加え、入学者選抜の段階においても、英語外部試験を活用することにより、入学後の英語学習との接続・連携を進めるために導入。

アドミッション・ポリシー等との関係

- 本学の教育改革の３つの柱である「哲学教育・国際化・キャリア教育」の**「国際化」を推進するため、英語の４技能を学んだ生徒に対し幅広い受験機会を提供。**

制度設計のポイント

- 一般選抜における英語科目を受験せずに、英語外部試験（英検、GTEC、TEAP、IELTS）のスコアを、英語科目の得点として換算することが可能。
- 外部試験のスコア利用を申請した場合でも、英語科目の受験は可能。その場合は、どちらか高得点の結果を判定に採用。
- **経済的事情へ配慮し、英語外部試験スコアを活用する場合は入学検定料を約43%減額。**

実施体制

- 提出書類確認：20人程度で書類確認（前期日程出願期間随時）
- 負担軽減および不正防止、公平性担保の観点から、提出書類の目視チェックの他、資格検定試験の得点をデータによる照合を可能とする体制を構築し、**判定に採用する換算点・本学英語科目を受験した場合の採用点数もシステム化**し対応している。

【利用可能な英語外部試験】

実用英語技能検定（英検）※従来型を含む全方式
2019年４月以降に１級・準１級・２級のいずれかを受験（一次試験のみ、二次試験のみでも可）し、右記のスコアを取得していること（不合格でも可）。

GTEC（４技能版）CBTタイプ
2019年４月以降に受験したもの。

TEAP（４技能）
2019年４月以降に受験したもの。
ただし、同一試験日のスコア合計点のみ有効。

IELTS™
2019年４月以降に受験したもの。
（アカデミック・モジュールのみ対象）

成果の検証

- 平成29年度より導入しているが、英語外部試験利用入学者の入学後の追跡調査を行っており、利用せずに入学した学生よりも**GPAが高く、海外留学経験者も多い傾向**。
- 入学後の調査結果から導入の効果があったため、令和４年度より大学入学共通テスト利用入試においても、全学部で導入を決定。

好事例選定委員会委員コメント

- 検定料減額については、大学自体に**４技能５領域（※）を評価する手立てや予算がなくとも、工夫次第で高校生の学びを変えることができる**ことを示している。

※ 聞く、読む、話す［やり取り］、話す［発表］、書く

一般入試（英語外部試験利用入試）について

スコアは下限

対象学部		全学部			
入試日程・方式		一般入試 前期日程の全入試方式			
試験名		実用英語技能検定（英検）※従来型を含む全方式	GTEC（4技能版）CBTタイプ	TEAP（4技能）	IELTS™
本学一般入試の英語科目みなし得点（素点）	100点換算	2,304	1,190	309	6.0
	90点換算	2,150	1,063	253	5.5
	80点換算	1,980	999	225	5.0

金沢大学 「KUGS特別入試」「超然特別入試」

－知識基盤社会の中核的リーダー育成を実現する高大接続プログラム－

選定区分：エ 高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進

参照：金沢大学 受験生特設サイト
https://examination.w3.kanazawa-u.ac.jp/admission/

令和3年度入学者選抜概要

選抜区分：**＜KUGS特別入試＞**
総合型選抜、学校推薦型選抜、英語総合選抜
＜超然特別入試＞
A-lympiad選抜、超然文学選抜
対象学域：全ての学域
募集人員：KUGS特別入試172人（学域全体の約10%）
超然特別入試 各学域が定める若干名
入学者数：KUGS特別入試103人（志願倍率約0.9倍）
超然特別入試５人

【選抜方法】

＜KUGS特別入試＞
- **志願者等が「KUGS（金沢大学＜グローバル＞スタンダード）高大接続プログラム」を受講**し、評価基準を満たした場合に「修了認定書」が発行され、出願資格を獲得。
- 出願後、口述試験や小論文、総合問題等により選抜。

＜超然特別入試＞
- 出願要件の一つに、高校在学中に本学が主催するコンテスト**「日本数学A-lympiad」又は「超然文学賞」に応募し、入賞した実績**。
- 出願後、口述試験や小論文等により選抜。

導入に至る背景・課題等

- **「学力の３要素」に対応する能力や経験をどの程度もっているか**、また、本学の教育方針に沿った志向を有し、**卒業・学位授与方針を体現する学生として卒業し、社会の各界でイノベーションに貢献することが出来る潜在力をもっているか**を、多面的・総合的に評価するため、令和３年度入試から、特別選抜においてKUGS特別入試、超然特別入試を導入。

アドミッション・ポリシー等との関係

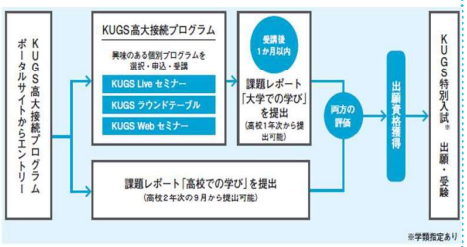
- 自己の使命を国際社会で積極的に果たし、知識基盤社会の中核的リーダーとなって、常に恐れることなく現場の困難に立ち向かっていける「金沢大学ブランド」人材の育成を教育目標とし、これを実現するために以下の６つの能力からなる**「KUGS（金沢大学＜グローバル＞スタンダード）」**を定め、KUGS特別入試及び超然特別入試を実施。

1. 自己の立ち位置を知る
2. 自己を知り、自己を鍛える
3. 考え・価値観を表現する
4. 世界とつながる
5. 未来の課題に取り組む
6. 新しい社会を生きる

制度設計のポイント

KUGS高大接続プログラムと入学者選抜は相互に独立。

＜KUGS特別入試＞
- KUGS高大接続プログラムにおいて課題レポート２件の提出機会を提供し、その評価結果を受講者に通知するやり取りを通じて、**入学までの間に本学での学びに不可欠な能力・資質及び意欲の成長を促進**。
- **「KUGS高大接続プログラム」**を受講した志願者等が、高校等での各種活動に関する課題レポートと、当該プログラム受講後1か月以内に大学での学びを考える課題レポートを、選抜年度の8月末までに提出。
- 2件の課題を終了し、KUGSに基づく評価基準を満たした場合、約1か月後に出願資格となる「修了認定書」を発行。



＜超然特別入試＞
- **数学的又は文学的に特異な才能**を持ち、その才能を活かして将来専門的分野で社会的な課題の解決に強い意欲を持っている志願者を受入れ。
- 「日本数学A-lympiad」の応募は、高等学校１、２年次、中等教育学校４、５年次の生徒等を対象に、10月中を応募期間とし、12月下旬に結果発表。
- 「超然文学賞」の応募は、高等学校、中等教育学校後期課程の１～３年次の生徒等を対象に、10月に結果発表。

医学類※を除き、**いずれも11月に出願開始、12月に最終選考を実施。**

※KUGS特別入試 医薬保健学域医学類 学校推薦型選抜Ⅱにおいては、12月に出願開始、2月に最終選考を実施。

実施体制

＜KUGS特別入試＞
- 課題レポートに関する評価ポイントや作成方法について、育成型入試の観点から**オンデマンド動画による解説**や、**オンラインで個別相談・指導**を実施。

＜超然特別入試＞
- 出願要件の一つである入賞実績として挙げる数学コンテスト「日本数学A-lympiad」と文学コンテスト「超然文学賞」は本学主催。

成果の検証

- 令和3年度から導入したため、入学後の学生の学修能力等について充分な分析ができていないが、１年次のGPAやGPTは一般選抜入学者と同等以上であり、KUGSの理念に合致する多様な人材を確保できていると考えている。
- 入学者の学修状況や他の学生への影響について継続的な調査を行う予定。
- KUGS高大接続プログラムとその評価については、**高校での学力の育成に資するとして高校との懇談会等で高い評価**。

好事例選定委員会委員コメント

- KUGS特別入試では**高大連携が活かされており**、超然特別入試では、２つの独自のコンテストの入賞者に出願資格が与えられるなど、**時間をかけた面白い試み**である。
- KUGS特別入試は、課題レポートの作成方法や評価のルーブリックが具体的に公開されているので、高校生が自力で取り組むことができる。**課題への取組が大学での学びに繋がるように設計**されている点も評価できる。
- KUGS特別入試で高大接続プログラムのレポートと高校での学びのレポートを併せて課し、**学力の３要素を評価**している点や、**レポートについて事前に評価ポイントを動画で解説**している点が評価できる。
- 今後、入学者に求める能力を実際に測定できていることを示す検証が行われることを期待する。

藤田医科大学「ふじた未来入試」「一般入試」

－記述式問題における効率的な採点の工夫－

選定区分：イ 思考力・判断力・表現力の評価・育成

参照：藤田医科大学　入学試験問題
https://www.fujita-hu.ac.jp/admission/nyushi-mondai/

令和3年度入学者選抜概要

選抜区分：総合型選抜（ふじた未来入試）
　　一般選抜（一般入試）
対象学部：医学部
募集人員：ふじた未来入試15人（学部全体の12.5%）
　　一般入試90人（学部全体の75%）
入学者数：ふじた未来入試15人（志願倍率約13.9倍）
　　一般入試95人（志願倍率約27.9倍）

制度設計のポイント

- 英語と数学は試験問題を大問ごとにマークシート方式と記述式に分けて出題し、**マークシート方式の得点が基準に満たない場合は不合格とし、記述式の採点をしない**。

導入に至る背景・課題等

- 採点効率化及び合格発表までの期間短縮のため。
- なお、マークシート方式と筆記式の出題により、アドミッションポリシーにある**多面的で高い学力を有し、また知識に加え、思考力・判断力・表現力を有する人物の獲得**が望める。

実施体制

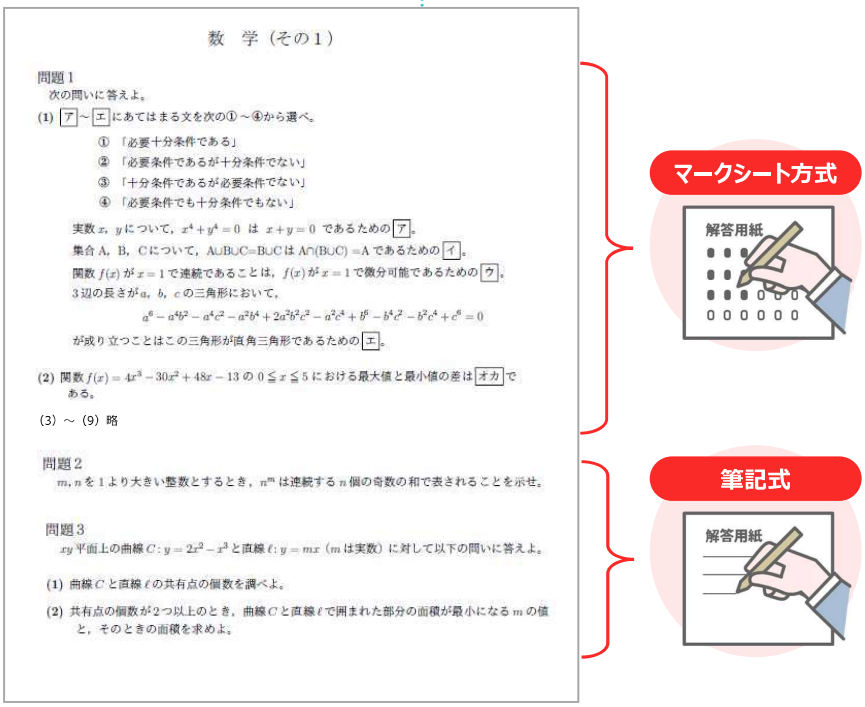
- **採点者の人数は変更せず、全体の採点時間を減らす**体制としている。
- 一方で、マークシート方式の得点が基準点に満たない場合は不合格とするため、採点するべき解答用紙を仕分けする必要があり、その部分で時間を要するが、対応する事務職員を増やすことによって対策をしている。

成果の検証

- **筆記式の採点時間は、全ての採点をしている時間と比べ、およそ半分程**。
- 科目によってばらつきはあるが、**半日～1日ほどの短縮**。

好事例選定委員会委員コメント

- 採点の効率化を図ることにより、**記述式問題の出題数の増加や高度な記述式問題の出題が期待**できる。
- 今後、入学者に求める能力を実際に測定できていることを示す検証が行われることを期待する。



数　学（その１）

問題１
次の問いに答えよ。
(1) $\boxed{ア}$～$\boxed{エ}$にあてはまる文を次の①～④から選べ。
① 「必要十分条件である」
② 「必要条件であるが十分条件でない」
③ 「十分条件であるが必要条件でない」
④ 「必要条件でも十分条件でもない」

実数 x，y について，$x^4+y^4=0$ は $x+y=0$ であるための $\boxed{ア}$。
集合 A，B，C について，$A\cup B\cup C=B\cup C$ は $A\cap(B\cup C)=A$ であるための $\boxed{イ}$。
関数 $f(x)$ が $x=1$ で連続であることは，$f(x)$ が $x=1$ で微分可能であるための $\boxed{ウ}$。
3 辺の長さが a，b，c の三角形において，

$$a^6-a^4b^2-a^4c^2-a^2b^4+2a^2b^2c^2-a^2c^4+b^6-b^4c^2-b^2c^4+c^6=0$$

が成り立つことはこの三角形が直角三角形であるための $\boxed{エ}$。

(2) 関数 $f(x)=4x^3-30x^2+48x-13$ の $0\leqq x\leqq 5$ における最大値と最小値の差は $\boxed{オカ}$ である。

(3) ～ (9) 略

問題２
m，n を 1 より大きい整数とするとき，n^m は連続する n 個の奇数の和で表されることを示せ。

問題３
xy 平面上の曲線 $C: y=2x^2-x^3$ と直線 $\ell: y=mx$（m は実数）に対して以下の問いに答えよ。

(1) 曲線 C と直線 ℓ の共有点の個数を調べよ。

(2) 共有点の個数が 2 つ以上のとき，曲線 C と直線 ℓ で囲まれた部分の面積が最小になる m の値と，そのときの面積を求めよ。

マークシート方式

筆記式

京都大学　「特色入試」

－高大接続を重視した多面的・総合的な評価による独自の入試－

選定区分：イ 思考力・判断力・表現力の評価・育成

参照：京都大学　特色入試
https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/admissions/tokusyoku

令和3年度入学者選抜概要

選抜区分：総合型選抜、学校推薦型選抜、
　　一般選抜（後期日程）
対象学部：総合人間学部、文学部、教育学部、法学部、
　　経済学部、理学部、医学部、薬学部、工学部、農学部
募集人員：165人（学部全体の約６%）
入学者数：139人（志願倍率約5.6倍）

【選抜方法】

- 調査書に加え、以下を提出。
  ・学業活動報告書、推薦書：高等学校長等が作成するもので、在学中の顕著な活動歴（**数学・国際科学オリンピック出場や英語資格・検定試験の成績等**）を記載。
  ・学びの設計書：志願者が作成するもので、**高校での活動から本学で何を学びたいのか、卒業後どのような仕事に就きたいか**といった学ぶ意欲や志について記載。
- 上記提出書類の**書類審査**に加えて、**大学入学共通テストの成績、能力測定考査**（文化・科学・思想・社会などから出題し長文の読解力・文章力を評価。また、数学から出題し数理的・論理的思考力を評価）**、論文試験、面接試験、口頭試問等のいずれかを組み合わせて実施。**

導入に至る背景・課題等

- 本学の基本精神を体現し、**将来様々な分野でリーダーシップをとって社会に貢献できる優れた人材を発掘し育成**するため、高校での学修における特徴的な活動や成果を重視し、各学部・学科が独自に定める資質や意欲・志などを総合的に評価するために導入。

アドミッション・ポリシー等との関係

- 本学の学風と理念を理解して、**意欲と主体性をもって勉学に励むことのできる人材を国内外から広く受け入れる**ため、受入れにおいては、各学部の理念と教育目的に応じて、その必要とするところに従い入学者を選抜。
- 特色入試においては、書類審査と各学部が定める方法により、**高校での学修における行動や成果、個々の学部・学科の教育を受けるにふさわしい能力と志**を評価する。

制度設計のポイント

- 能力、学ぶ意欲、志を多面的・総合的に評価する本学独自の選抜方式であり、本学を志願する学生の、**これまでの学びの活動等における努力のプロセス**や、**本学で学ぼうとする意欲を積極的に評価**する取組。
- 学部が定めたカリキュラムの内容を修得するのに必要とされる基礎学力や、個々の学部における教育コースにとって望ましい能力を重んじるという観点から、**書類審査に加えて、大学入学共通テストの成績、学部ごとの能力測定考査、論文試験、面接試験、口頭試問等を組み合わせて実施**。
- **高大接続と個々の学部の教育を受ける基礎学力を重視**し、
  ①高校での学修における行動と成果の判定
  ②個々の学部におけるカリキュラムや教育コースへの適合力の判定を行う。

実施体制

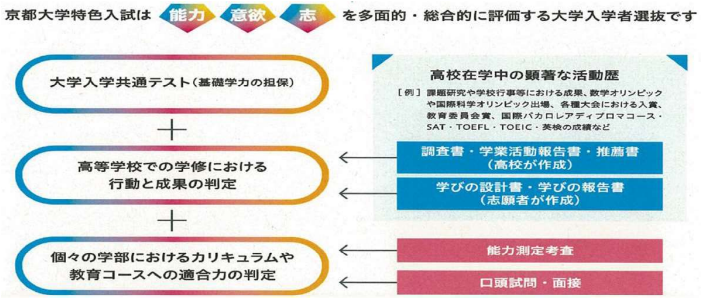
- 各学部が特色入試を通じて求める人物像を定め、学生募集要項等で公表。
- この求める人物像に基づき、各学部で出願資格、選抜方法及び評価基準を定めて、各学部が主体となって選抜を実施。
- なお、特色入試の日程は、各学部の方針に基づき、11月実施の総合型選抜、12月実施の学校推薦型選抜・総合型選抜、3月実施の一般選抜後期日程（法学部のみ）の3種類に分かれて実施。

成果の検証

- 特色入試と一般選抜で入学した学生が同じキャンパス内で学業や課外活動に励み、対話と切磋琢磨のなかで成長していくことを強く期待。
- 本特色入試の入学者については、**高大接続・入試センターが入学後も追跡調査**を行い、**その結果を全学の特色入試実施委員会で報告**するとともに、**各学部へフィードバック**。

好事例選定委員会委員コメント

- 基礎学力を一定程度担保しながら（大学入学共通テスト）、学びの設計書、高等学校長等の作成する「学業活動報告書」や「推薦書」（顕著な活動歴含む）により、高校での学びや大学を志望する理由など、**思考力・判断力・表現力や学びに向かう力を評価**している。
- 「高校での学修における行動と成果の判定」と「個々の学部における適合力の判定」を併せて評価しており、「学業活動報告書」や「学びの設計書」、高度な記述式試験・論文・面接・口頭試問により**学力の３要素の評価**となっている。



京都工芸繊維大学 「ダビンチ入試」

－選考と入学前教育を通じて高大トランジションの達成を目指す入試－

選定区分： ア 総合的な英語力の評価・育成　イ 思考力・判断力・表現力の評価・育成

参照：京都工芸繊維大学 ダビンチ入試
https://www.kit.ac.jp/ao/

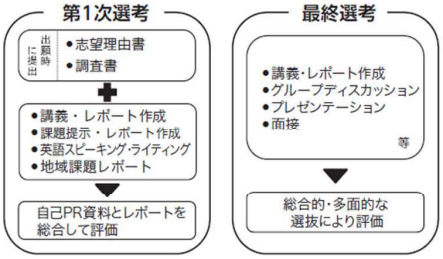
令和3年度入学者選抜概要

選抜区分：総合型選抜
対象学部：工芸科学部
募集人員：80人（学部全体の約14%）
入学者数：62人（志願倍率5.3倍）

- 一般プログラム【一般、グローバル】、地域創生Tech Program【一般、地域、社会人】の2つの教育プログラムと6つの課程。

【選抜方法】

- 第1次選考：出願書類、講義・レポート作成
  このほか、一般プログラム【一般】は**課題提示・レポート作成**、一般プログラム【グローバル】は**英語スピーキング・ライティング**、地域創生Tech Programは**地域課題レポート**
- 最終選考：課程ごとに、**面接、口頭試問、講義・レポート作成、課題提示・グループディスカッション等**のスクーリングより選考



第1次選考と最終選考の総合評価で合否を判定

導入に至る背景・課題等

- 従来のペーパー形式の入試＝学力のみによる選抜ではなく、必要な基礎学力を持ち、21世紀の科学技術創造の基盤を担う意欲のある者や、チャレンジ精神旺盛で行動力ある者を選抜するために、平成14年度より**AO入試を導入**。
- 平成30年度からは**高大トランジションの達成を目指した入学前教育（ダビンチ・カレッジレディネスプログラム）**の内容に変革。同時に、グローバル化の進展にあわせて、大学独自で開発した**CBTシステム**を用いた**英語スピーキングテスト**を課す、一般プログラムの募集区分**「グローバル」**を新設。

アドミッション・ポリシー等との関係

- 本学では、21世紀の産業、社会、文化に貢献できる国際的な理工科系専門技術者（**TECH LEADER**）を養成することを目的とし、その目的を達成するためのディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを制定。
- 卒業生が有すべき能力として、「専門性」、「リーダーシップ」、「外国語運用能力」、「文化的アイデンティティ」の4つを**「工繊コンピテンシー」**として掲げ、工繊コンピテンシーに繋がる受験生の多様な学力、レディネス、ポテンシャルを評価。

制度設計のポイント

ダビンチ入試は、選考と入学前教育を通じて、高校生から大学生になる、**高大トランジションの達成**を目指し設計している。

- 出願資料で自己発見と目標をプランニングし、進学意義を高める。
- 選考では従来の学力検査や大学入学共通テストを課さず、**大学での教育現場を再現して、大学での学業遂行が可能かどうかを評価する**。
  第1次選考では、高校までの基礎学力に新たな知識を講義で学び、その理解と活用する力や論理性、表現力等を評価。最終選考では、より専門分野の領域において様々な教育活動での理解力や洞察力、協調性や独創性等を評価。
- 合格者を対象に、高校からの学びと大学進学への構え（レディネス）が醸成されるよう、リメディアル（※）だけではなく、**大学教育を体験する入学前教育を実施**。
  内容は、「科目強化学習（大学独自のリメディアル通信添削教材）」、大学研究の基本的な考え方と方法を学ぶ「理工学基礎講座」や、PBLによる協働性と問題発見→解決→発表のスキル習得を学ぶ「グループワーク実践講座」、グローバルでの活動を促す「英語e-ラーニング」や「国際交流会」等がある。
- 入学後は、入学前教育を活かし、専門課程での基盤となる専門力を修得し、**外国語運用能力、TECH LEADERとしてのリーダーシップ及び文化的アイデンティティ**を育むことができるよう構成された教育プログラムを実施。

※リメディアル：
大学教育を受ける前提となる基礎的な知識等についての教育をいう。補習教育とも呼ばれる。

実施体制

- 出題、点検、採点及び当日の講義実施、試験監督に、第１次選考で延べ109人、最終選考で122人の教員が担当。
- 英語スピーキングテストについては、英語担当教員を中心に、課題作成５人、点検担当者２人、採点担当者７人、試験監督者４人の体制で実施。
- CBT方式の英語スピーキングテストは、PC等設備が限られ、また公正な試験のために受験生同士の間隔を確保しなければならず、一度の受験人数が限られるなどの課題がある。

成果の検証

ダビンチ入試で入学した学生は、一般選抜で入学した学生と比べ、次のような傾向がみられることが分かっている。

- 試験中に新しい考え方をつきつけられ、新鮮な経験ができたという**通常の一般選抜との違い**を感じており、試験を通じて大学ではこのように面白いことが学べるのだと**向学心が醸成**された様子であること。
- **自立的学習姿勢**があり、**調査研究手法**（協働的問題解決・表現技法・プレゼンテーション）**の経験値が高い**こと。
- **目標に向かって交流も含めて活動的に学習したいという主体的学習観**を持つ。**単位取得が難しくても興味ある講義の受講を望んでいる**こと。

好事例選定委員会委員コメント

- 志望理由書を重視する**一次選考から、志望分野の講義を聞いてレポートをまとめる**など評価できる。また、**CBTについては、独自の開発であり先導的**である。
- CBT方式による英語スピーキングテストを行うなど、**英語4技能を総合的に評価する選抜**を行っており、大変意欲的な入試制度である。
- 一方、CBT導入はかなり難易度が高いため、他大学では容易に導入できない可能性も懸念される。
- **講義を受けてのレポートを含むなど思考力・判断力・表現力を問う内容**でもある。
- **入学前教育も大変丁寧**に取り組んでいる。
- この方式で入学した学生のその後の追跡なども行っていただきたい。

奈良女子大学 「探究力入試『Q』」

－「探究力」をキーワードとした高大接続の実質化－

選定区分： イ 思考力・判断力・表現力の評価・育成

参照：奈良女子大学 総合型選抜 探究力入試「Q」
http://koto.nara-wu.ac.jp/nyusi/qnyusi/

令和3年度入学者選抜概要

選抜区分：総合型選抜
対象学部：全ての学部（文学部、理学部、生活環境学部）
募集人員：12人以内（文）、10人以内（理）、
　　11人以内（生活環境）（全学部の約７%）
入学者数：９人（文）、５人（理）、７人（生活環境）
　　（志願倍率約4.7倍）

【選抜方法】

- 調査書に加え、**志望理由書、活動報告書、研究レポート、学習研究計画書、小論文等**を提出（学部・学科ごとに異なる）。
- 第１次選考：提出書類により、総合的に判定。
- 第２次選考：学部・学科ごとに以下のような選考を実施。
  ・指定図書等に関する**小論文、口述試験**（文）
  ・模擬授業と資料を基に課題を与え、**レポート作成の上面接**（理）
  ・提示された生物実験マニュアルに従った**実験の実施及びレポート作成**（理）
  ・科学的な内容の文書（英語を含む場合有）、実験データ等を読み、**小論文作成の上プレゼンテーション及び質疑応答**（生活環境）
  ・小論文で選択しなかった課題について、**作成したポスターを活用したプレゼンテーション**（生活環境）

導入に至る背景・課題等

- 第３期中期目標（入学者選抜に関する目標）のうち、「学力判定に偏ってきた従来の入学者選抜を、**学問研究に必要な感性、主体性、学力等を総合的に判定**できるものに改めるために、入学者選抜方法の根本的な見直しを行う」、及び同中期計画のうち、「学問研究に必要な感性、主体性、学力等を総合的に判定できる、あるべき入学者選抜方法を研究、開発する」を実現し、併せて**学生の多様性の向上に寄与**するために導入。

制度設計のポイント

- 高校教育で近年盛んになった「探究」を包含しつつ、高校時代の探究の“成果”だけではなく、大学入学後に重要となる探究「力」をも評価しようとしており、**そもそも大学が探究の場であることを強調し、大学生が教員と同じく"探究する者"であるというメッセージ**を重視。
- 専用ホームページにおいて、高校２年生に向けて課題テーマ・図書や作品制作課題等を提示し、**各自の高校時代の学びや探究的な問いの継続性**を重視。
- 選抜単位によっては、**志願者の探究テーマに関する評価書の作成を第３者に求める**など、多元的で客観的な評価のための工夫も導入。
- **全選抜単位で入学前教育を実施**。
- 一部の選抜単位においては、**フォローアップするためのゼミ科目を入学後に実施**。

実施体制

- 各学部において学部長を委員長とする**入学試験実施委員会**を設置し、出題・採点委員をはじめ各委員の選出を行い、**組織的に実施**。
- 第１次選考は書類選考のため特定の実施日は定めていないが、出願期間終了後速やかに整理した出願書類を入試課より各選抜単位の出題・採点委員に引き渡すよう対応。第２次選考は原則同日に実施し、試験当日は全学共通の試験実施本部を設置。
- 一般的な入試と異なり、**選抜単位ごとに選抜方法やスケジュールが異なり複雑**であるため、**試験運営上のミスが生じないよう細心の注意**を払っている。

アドミッション・ポリシー等との関係

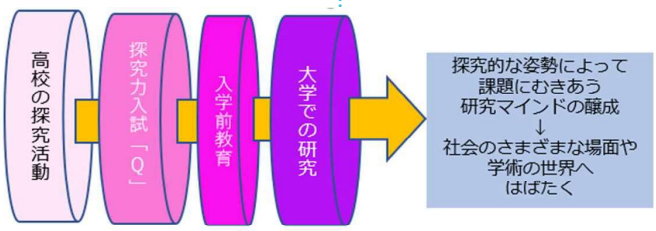
- 本学のアドミッションポリシーのうち、
  ・大学とは知を創造する空間です
  ・大学での学びはその探究と不可分であり、学生もまた探究者です
  ・探究に必要なのは、人間の生や生活、社会や自然に対する瑞々しい問い、これまで人類が集積してきた知識への体系的な理解、およびそれらに立脚した柔軟かつ論理的な思考です
  ・諸学の知識はもちろんのこと、それらを関係づけ活用する力が求められます
  というメッセージを積極的に受け止める学生を選抜しうる入試方法を工夫・導入した。

成果の検証

- 令和3年度に入学した１期生については、**他の選抜方式で同時入学した学生と比較が可能なようにデータ化**するなど、今後の検証に備えている。

好事例選定委員会委員コメント

- **探究的なことについての興味と資質・能力で選抜**しようとしている。
- 高校２年生の10～12月に選考方法（指定図書や課題）を開示して、高校３年生の秋に選考を行うスケジュールのため、**課題にじっくり取り組みつつ大学で学ぶ力を身に付けたい生徒に向いている**。



島根大学 「へるん入試」

－「学びのタネ」を大学での学びに繋げる育成型入試－

選定区分：エ 高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進

参照：島根大学 へるんスクエア（へるん入試関連情報）
https://www.shimane-.ac.jp/nyushi/hearn_square/

令和3年度入学者選抜概要

選抜区分：総合型選抜
対象学部：法文学部、教育学部、総合理工学部、生物資源科学部
募集人員：254人（学部全体の22%）
入学者数：220人（志願倍率1.4倍）

【選抜方法】

- 調査書：**学習成績の状況、部活動、生徒会活動、総合的な学習の時間や探究型学習**を評価
- クローズアップシート：**高校の活動の中で最も力を入れて取り組んだもの**を一つ挙げ、その活動にどう取り組んだのか、その振り返り等を評価

※上記提出書類を評価したうえで、下記試験・面接を実施。

- 読解・表現力試験：教科書・参考書のような**短い論理的文章から読み解いたことを、設問に応じて論理的に表現できるか**を評価
- 志望理由書を用いた面接：**「学びのタネ」を記述した志望理由書を用い、知的好奇心・探究心**などを評価

導入に至る背景・課題等

- **地域社会で活躍する力を育成**するためには、知識・技能に偏らず、思考力・判断力・表現力及び主体的に学習に取り組む意欲・態度等を評価する入試を開発するとともに、大学進学への期待・意欲を育成することが必要。
- そのため、主体的に学ぶ高校生を育成する**高大接続事業により、高校での学びを大学教育に繋ぐ**とともに、受験生の多様な能力を多面的に評価・選抜する**育成型入試**を実施。

アドミッション・ポリシー等との関係

- へるん入試で求める学生像として次の四つを掲げ、大学の学びで必要な**特定の領域・事象に対する強い好奇心と探究心を重視**。
  - ・大学の学びに必要な基礎的学力を有する人
  - ・特定の学問・教科に関心を持ち、それに継続的に向きあったことのある人
  - ・知的好奇心を持ち、それを主体的・積極的な探究により深めた経験のある人
  - ・他者と協働して何かをなし、それを自らの学びに役立てたことのある人

制度設計のポイント

- 「知識」に偏重した選抜ではなく、**「学びのタネ」（知的好奇心・探究心等）**をキーワードに、**高校までに育んだ探究心や将来の学びの可能性**を重視。
- 中国地方５県の**教育委員会・高校等と高大接続・入試改革に関して意見交換**し、その方向性に基づき制度設計。
- ①**出願前教育（Web面談等）**、②**入学前教育（各学部の事前課題、入学前セミナー等）**、③**入学後（フレッシュゼミナール等）の三つのステップ**で、入試を通して主体的に学ぼうとする生徒・学生の意志と意欲を醸成する流れを構築。

実施体制

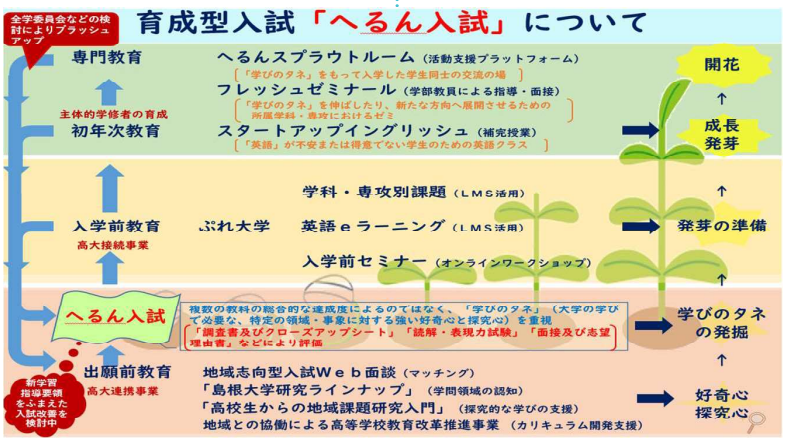
- 大学教育センター長をはじめとした、16名からなる**「へるん入試委員会」**の下に、**作業部会や各WGを設置**。
- 読解・表現力試験に監督者39名、面接・実技試験に監督者152名、調査書・クローズアップシート評価に評価者８名で実施。

成果の検証

- 令和３年度入学時調査によると、へるん入試で入学した学生は、へるん入試以外で入学した学生と比較して、**どうしても進学したい大学だったと選択している割合が高く**（へるん入学生89%、へるん以外入学生55%）、**島根大学の教育内容の特色を理解している割合も高い**（へるん入学生82%、へるん以外入学生61%）などの傾向があった。
- 令和４年度「へるん入試」合格者の担任（高校教員）を対象にしたアンケート結果によると、**回答者の99%**が「へるん入試の受験に至る一連のプロセスを通して、生徒自身の振り返りや自己分析、主体的な活動などが促進された結果として、生徒の変容や成長が感じられたか」について**肯定的に回答**した。

好事例選定委員会委員コメント

- **18歳人口減少を見据えた時、多くの大学が考えるべき**入試の形態の１つと考える。
- 高校での学びを大学での学びに繋げていく入試を行う上で、**「評価する力」をどのように測ろうとするのかを具体的に分かりやすく説明**している。



高知大学 「総合型選抜Ⅰ（医学科）」

－知識、思考力に加え、問題解決能力、表現力、主体性等の多面的かつ的確な評価－

選定区分：イ 思考力・判断力・表現力の評価・育成

参照：高知大学 受験生サイト
https://nyusi.kochi-u.jp/

令和3年度入学者選抜概要

選抜区分：総合型選抜Ⅰ
対象学部：医学部（医学科）
募集人員：30人（学科全体の約27%）
入学者数：30人（志願倍率6.4倍）

【選抜方法】

- 第１次選抜：**小論文、総合問題、活動報告書**を課して**知識、思考力等**を評価。
- 第２次選抜：**態度・習慣領域評価と面接**を課し、**思考力や表現力、主体性等**を評価。

※態度・習慣領域評価は、1グループ5名のSGD（Small Group Discussion）により、シナリオから学習すべき問題点を抽出しその解決を図る問題基盤型学修（PBL：Problem Based Learning）と成果発表を1日9時間に渡り繰り返す。

導入に至る背景・課題等

- 医療現場では、膨大な医学知識に加え、**問題解決能力やプレゼンテーション能力、対人関係の能力**なども必要とされる。こうした能力は、臨床研修時に身につけるべき診療能力「医療人として必要な基本姿勢・態度」として掲げられている。
- しかしながら従来の知識偏重の選抜による入学者においては、**マニュアルがなければ動けない、患者さんの目を見て話せない**など、**上記の能力に問題を抱える学生の存在も問題視**されていた。
- これらの課題を解決すべく本学医学科では、平成15年度入試よりAO入試Ⅰ（現：総合型選抜Ⅰ）を導入し、**入試の段階で問題対応能力や態度に優れる者を選抜**し教育することで課題解決に取り組んできた。

アドミッション・ポリシー等との関係

- アドミッション・ポリシーにおいて、「【知識・技能】高校卒業程度の教科学習に関する知識があり理解している」「【思考力・判断力・表現力】積極的に問題点をみつけ、解決方法を探求できる。問題を分析的、批判的に考え、解決できる。自分の考えを口頭あるいは図や文章を用いて筋道を立てて明確に表現できる」と定め、選抜では【知識・技能】を**小論文、総合問題、活動報告書**で、【思考力・判断力・表現力】を**小論文、総合問題、態度・習慣領域評価、面接**で評価。
- 「【主体性・多様性・協働性】協調性や他者への深い思いやりがあり、周囲と良好なコミュニケーションをとることができる。多様な背景を持つ他者の能力を認め、同じ目標に向かって協働することができる。」と定め、選抜では**態度・習慣領域評価等で評価**。

制度設計のポイント

- 思考力もしくは主体性等のみに特化し評価する選抜ではなく、第１次選抜（筆記試験）で知識や思考力を評価した上で、第２次選抜（グループワーク）で問題解決能力や表現力、主体性等を評価。
- **長期間かけた丁寧な選抜**であり、**異なる評価方法を組み合わせる**ことにより、**多面的視点から評価が可能**。
- 第２次選抜における態度・習慣領域評価は、**入学後の学習形態（TBL（※）、PBL）と同状態で評価**。

※Team Based Learning：
知識を応用する能動的な学修に学生を引き込むことを重視し、グループで協働し互いに教え合う能力を鍛えるチーム基盤型学修。

実施体制

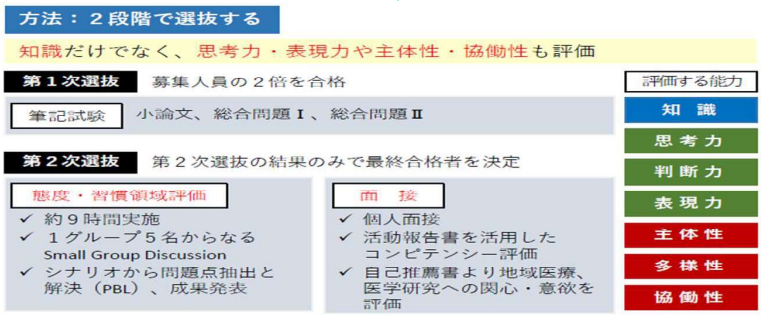
- **「過去問題活用宣言」への参加**や**余裕ある採点期間の設定、外部業者による試験問題のチェック**により、**入試ミスによる作題者の心理的負担を軽減**。
- 第２次選抜における「思考力・判断力・表現力」および「主体性・多様性・協働性」の評価は、**長時間且つ多くの評価者を必要**とする。これらを**効率よく実施**するために、第１次選抜で「知識」を評価し、**第２次選抜で評価する受験者数を募集人員の２倍に限定**。

成果の検証

- 入学前にアドミッション・ポリシーに関する自己評価（アドミッション・ポリシーに関する達成度を合格者自身が評価）を実施。スコアを当選抜、学校推薦型選抜Ⅱ、一般選抜間で比較した結果、**多くのアドミッション・ポリシー項目で当選抜入学者が高いスコア**を示した。
- 入学後の様態に関して学生間ピア・レビューを実施。当選抜入学者の選抜時の**態度・習慣領域評価スコアと学生間ピア・レビュースコアには有意の相関**があった。また、**当選抜入学者のピア・レビュースコアは、他の選抜の入学者より平均値が高い**。
- 入学後の**GPAは、当選抜入学者は前期日程入学者と比較して有意に高い結果**となった。
- **ストレート卒業率は、当選抜入学者が最も高い**。
- 卒業後の追跡調査（臨床研修時の指導医による評価）では、当選抜による入学者は他の選抜による入学者に比べ、**「患者―医師関係」「チーム医療」「症例呈示」において有意に優れている**ことが判明。

好事例選定委員会委員コメント

- **学力の３要素に従って丁寧な選抜**を行っている。
- 評価を数値化し、入学後の学習の成果も測定しており、**教育・入試・評価を一体的にとらえて実施**している点は優れた実践といえる。
- **多面的に学力を評価**しており、**アドミッション・ポリシーとのつながりが明確**。**入学前後の教育も丁寧**に行われている。



長崎大学 「一般選抜」

－高校や教育委員会と共同で作問研究した「高度な記述式問題」－

選定区分：イ 思考力・判断力・表現力の評価・育成

参照：長崎大学 入試参考問題
https://www.nagasaki-u.ac.jp/nyugaku/admission/profile/

令和3年度入学者選抜概要

選抜区分：一般選抜（前期日程）
対象学部：全ての学部
募集人員：1,038人（学部全体の約63%）
入学者数：1,101人（志願倍率約2.5倍）

- 前期日程の共通科目である英語・数学・理科（物理、化学、生物、地学）において、**高度な記述式問題を導入**。

導入に至る背景・課題等

- 平成29年4月、入試改革に向けた方針等を決定するとともに、入試業務の軽減策を提言するため、「長崎大学の入試改革に関する検討委員会」を設置。
- 以降８回の会議を開催し、同年12月に「**平成32年度以降における長崎大学の入学者選抜に関する基本方針**」を策定。

アドミッション・ポリシー等との関係

- 一般選抜の個別試験は、各学部等のアドミッション・ポリシーに沿った問題形式とし、論理的思考力・判断力・表現力を評価する高度な記述式問題を課すものとした。
- ただし、当分の間（令和５年度実施の入試まで）においては、これまでの共通科目（英語・数学・理科）の作題を見直し、高度な記述式を取り入れることにより対応。

制度設計のポイント

- 作問研究として、令和元年11月に第１回**モニターテスト**（長崎県高等学校進学指導研究協議会理事校の現３年生の長崎大学レベル受験層を対象）及び令和２年５月に第２回のモニターテスト（予備校の協力を得て、本学の医・歯・薬学部の受験層を対象）を実施し、目標設定した正答率と実際の平均点やモニターテスト実施校からのコメントを踏まえ、**今後の設問の工夫・改善点を報告書としてとりまとめ**。
- また、令和２年６月に、高度な記述式問題の**サンプル問題を大学ホームページに公表**。

実施体制

- **本学と長崎県高等学校進学指導研究協議会及び長崎県教育委員会の三者が連携**した「高度な記述式問題に関する研究を行う検討会」を設置し、共同で作問研究を実施。
- 作問研究は、教科・科目ごとに、本学教員２名、高校教員１～２名及びアドバイザーとして県教委又は高校教頭１名の体制。

成果の検証

- **作問研究を行う過程で、高校側と協議しながら難易度等の調整**を行うことにより、受験生が全く解答できないような高難度ではなく、なおかつ受験生の能力や理解度が測れるようなバランスのよい作問が期待できる。
- また、**高校における学習指導のノウハウを採点基準や採点方法の参考**とすることができる。
- **年度末に科目ごとに振り返りと総括**。また、例年開催している高校との入試連絡会で**各高校から「入学者選抜に関する意見と要望」**をいただき、**各作題班にフィードバック**している。
- 令和３年度選抜に対しては、「高度な記述式問題に対して受験を不安に思う生徒がいたが、実際の出題内容については全体的に良問であり、受験後の生徒の感想を聞く限り特に難化した印象は感じていなかったようだ」との肯定的な意見や、一方、「どの問題が高度な入試問題であったのかわからなかった」という意見もあった。
- また、今後について、「問題傾向が変わっていくと思うが、高校で学習したことを反映できる試験問題をお願いしたい」との意見もあった。

好事例選定委員会委員コメント

- 高校・教育委員会と連携して「高度な記述式問題に関する研究を行う検討会」を設置し、**共同で作問研究を行う興味深い取組**。
- 一方で、大学のAPとの関連が示されていないことや、特定の教育委員会とのみ協議した内容で作問を検討することへの是非などは考えられるが、各大学への１つの参考事例になる。
- **「サンプル問題」と「解答例・解説」が公開されており、大学が思考力・判断力・表現力を具体的にどのように測定しようとしているかが受験生に示されている**ので、そのような問題を解ける能力を身につけるような学習を促すことに繋がる。

高度な記述式問題（英語）【サンプル問題】（解答時間40分）

＜設問＞
次の英文はスマートフォン中毒の10代の若者たちを救うためのアドバイスである。この英文を参考にして、スマートフォン中毒にならないために、あなたが最も大切だと思うことについて200語程度の英文で意見を述べなさい。（＊解答の末尾に、合計語数を記入しなさい。）

How to Help Teens Overcome a Smartphone Addiction

Believe it or not, smartphone use can be beneficial for teens. Teens use smartphones to connect with peers, seek help on school assignments, and they can even use apps to help them get organized. Although it might seem like teens are constantly connected, many use their devices within healthy limits.

It's important to empower teens to take control of their own use of smartphones and create and maintain a healthy balance. This isn't a one-time conversation. A few things you can do help provide guidance and support include the following:

……

＜出題意図＞
与えられた英語資料を有効に活用し、読み手を説得できるように、関連する情報や自分の考えを効果的な理由や根拠とともに、英語として適切な段落構成をもとに書いて伝えることができているかどうかをみる。

国立六大学連携コンソーシアム「ペーパーインタビュー」

－資質や特性、能力等の評価を書面で行う新たな筆記試験－ ※熊本大学で導入

選定区分：エ 高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進

参照：熊本大学 入試案内
https://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi?msclkid=5017f4a7d0c811ec9404e678c2d851c4

令和3年度入学者選抜概要

選抜区分：総合型選抜（グローバルリーダーコース入試）
対象学部：文学部、法学部、理学部、工学部
募集人員：50人（学部全体の約５％）
入学者数：44人（志願倍率約1.8倍）

- 国立六大学連携コンソーシアム（千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学及び熊本大学で構成。平成25年に設立）の入試専門部会において、**「多面的・総合的評価」のためのペーパーインタビュー**（口頭のやり取りで得たい情報を紙面に書かせ、従来の面接に代わり資質や特性、能力等の評価を書面で行う新たな筆記試験）を開発。
- 熊本大学では、全国に先駆けて、総合型選抜のグローバルリーダーコース入試に導入。
- 試験当日は**60分の筆記試験**を実施し、**統一された評価基準や考え方**に基づき、学部等の教員から選出された評価者が評価。
- 高校で受験者が経験したことに対する「主体性等の多面的評価」を行うもので、**特に高校在学時に培ったリーダーとしての経験資質等を評価**。

導入に至る背景・課題等

- 国立六大学連携コンソーシアム入試専門部会で開発された「多面的・総合的評価」のための新たな筆記試験であるペーパーインタビューは、**各大学が高校生を対象とした事前の試行を経て開発**され、**評価の信頼性を確かめた上で導入**。
- 従来実施していたグループワークが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により実施困難となり、それに代わる選抜方法としても導入。

アドミッション・ポリシー等との関係

- 総合型選抜（グローバルリーダーコース入試）を実施している文学部、法学部、理学部及び工学部において、カリキュラム・ポリシー（CP）にグローバルリーダーに必要な資質・能力の修得に関して定め、アドミッション・ポリシー（AP）に**グローバルリーダーに関する能力**を定めている。
- これに基づき、入学者選抜において、ペーパーインタビューを実施し、**グローバルリーダーに関する資質・能力を審査**。

制度設計のポイント

- ペーパーインタビューにより**「多面的・総合的評価」を効果的に行う**ことで、一般選抜で入学する学生と比較して、より高いリーダーシップと意識を持つ学生の入学が期待。
- **同一の評価基準を用いて書面により実施**するため、通常の面接・グループワーク等と比較して、**採点の公平性等の向上**が期待。
- 書面により実施するため、通常の面接・グループワーク等と比較して、**面接を得意としない受験者であっても、資質、特性及び能力等の評価をより効果的に実施可能**。
- 対面で行う面接に比べ、教職員の従事時間及び受験者の待機時間を含めた**拘束時間を短縮**できる。
- また、質疑応答の発言や座席等の入れ替わり等も発生しないことから、**新型コロナウイルス感染症の影響下においても安全な試験実施**が可能。

実施体制

- 評価（採点）者に対して共通理解をもって評価することを目的に、ペーパーインタビューの説明と評価の項目・方法・基準等の説明を行う**評価者説明会**を実施。
- 受験者全員が同一の試験室で一斉に受験するため、**面接室への誘導や待機者監督業務なども省力化**でき、**従事する教職員についても従来の面接試験の２/３程度**となった。

成果の検証

- ペーパーインタビューを導入して間もないこともあり、現状、分析・改善に資するデータが少ないため、総合型選抜（グローバルリーダーコース入試）での本選抜方法の有効性について、今後の追跡調査が必要。
- 追跡調査の内容としては、多面的評価として審査した能力と学修成果等との関係を調査する予定。

好事例選定委員会委員コメント

- **高校の実状や大学の成績との関連などを綿密に検討した上で開発**されており、好事例といえる。
- 今後、入学者に求める能力を実際に測定できていることを示す検証が行われることを期待する。

熊本大学 ペーパーインタビュー問題例

問： 現在、勉強やそれ以外の趣味などで指導者や教科書などの学びの枠を超えて、あるいはそれらの学び以外に、自ら進んで努力していることがありますか。それはどのようなことですか。具体的に答えてください。もし該当する事柄がなければ、これからやってみたいと思っていることや過去に行ったことでも構いません。複数思いつく人はその中からどれか1つを選んで答えてください。どんな些細なことでも構いません。下記の①～⑥の質問に留意して解答してください。

① いつ頃、どのようなことか。
② 自ら進んで努力しようと考えた理由は何か。
③ 具体的に行っている努力はどのようなことか。それを行うことでどのようなことを期待しているか。
④ 現在も努力を続けているか。継続の理由は何か。努力を止めている場合は、その理由を述べる。
⑤ すでに何か結果・成果を得ているなら記述する。最終的な目標はどのようなものか（より具体的に記述する）。
⑥ その努力を通して得たことは何か。今後、質問と同じような状況になったらどのように行動するか。

選定区分：エ 高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進

熊本大学 「肥後時修館」

－グローバルリーダー育成のための早期教育や高大接続教育の実践－

参照：熊本大学　入試案内
https://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi?msclkid=5017f4a7d0c811ec9404e678c2d851c4

実施概要

- 熊本県内の高校生を対象としたグローバルリーダー育成塾**「熊本大学肥後時修館」**を令和元年度に開校し、グローバル教育をはじめ数理教育等の高大接続教育を実施。
- 具体的には、令和３年度に以下の内容を半年間実施
  - **・英語による特別授業、留学生との特別課外活動**
  - **・数学の証明問題等を活用した課題解決やコミュニケーション時に必要な思考法を養う授業**
- **県内の高校１～２年生を対象に、各テーマ10名程度**を募集。

制度設計のポイント

- 令和３年度選抜では、修了者のうち、実際に本学の総合型選抜（グローバルリーダーコース入試）を経て入学した者がいる等、**高大接続教育を実践する取組**として機能。
- 対面授業のほか**オンラインを活用した遠隔教育**も実施。受講に関する利便性が高く、より多くの受講者にグローバルリーダーの育成を目指した教育プログラムを実施することで、**県内の人材育成に貢献**。
- 入学前の高校生に対して大学での教育を提供することで、**より深い学びを体験してもらい、高校教育と大学教育間のギャップを解消**。

成果の検証

- 本プログラムは、必ずしも本学への進学を求めるものではないが、より受講者が本学に魅力を感じ、入学に繋がるよう、**教育プログラムの改善を継続**していく必要がある（受講者アンケートでは、**多数の肯定的意見**が寄せられている）。
- 既に総合型選抜における多面的評価の一部として活用しているが、今後の追跡調査等を踏まえ、**開講科目について本学入学後の単位化を目指す等の取組を推進**する予定。

導入に至る背景・課題等

- 本学への進学に限定することなく、**グローバルリーダー育成のための早期教育**を実施し、**Student Mindsetを涵養する**ことを目的。
- スーパーサイエンスハイスクール事業、スーパーグローバルハイスクール事業及び**「探求を重視する授業」の実施等にみられる高校の教育の変化に対応する本学の取組**として位置づけ。
- 本プログラムを修了し、本学の総合型選抜（グローバルリーダーコース入試）に出願した場合は、出願書類の一つである、「活動歴報告書」において評価。

実施体制

- 本学の**大学教育統括管理運営機構教員及び関係事務部**が、①募集要項作成及び県内高校への告知②申請書類等受付及び書類審査③受講許可証等の作成及び送付④講義資料等準備及び講義当日の対応⑤修了証明書の作成及び交付、の業務を実施。
- 令和３年度については、**11月から3月に渡り本学LMS（学習運営システム）を使用**し、**オンデマンド形式**（プレゼンなどは一部オンライン形式）で２テーマを開講。

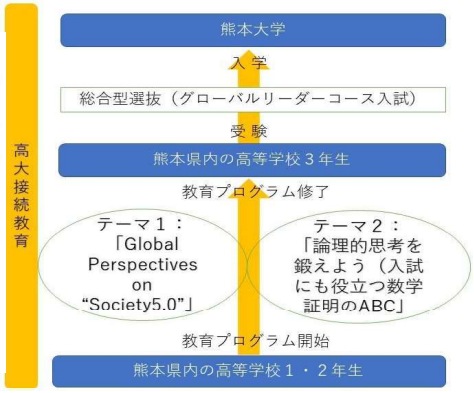
好事例選定委員会委員コメント

- 県内の高校との緊密な連携により、**高校生の時点で大学の学修を体験することを通じた人材育成**ができている。
- 今後、入学者に求める能力を実際に測定できていることを示す検証が行われることを期待する。

アドミッション・ポリシー等との関係

- 本学共通のカリキュラム・ポリシー（CP）に、「多様な文化や価値観を知り、グローバルな視点で考え、国際社会やその中にある地域で知性的に行動をするための知識と技能を身に付けることができる」ことを定めている。
- また、アドミッション・ポリシー（AP）に**「グローバルな視野を持ちつつ、地域社会や世界が抱える課題の解決に貢献する意欲を持つ人」**を定めている。熊本大学肥後時修館は能動的にこのような人材を発掘し、育成するもの。

10月～3月　各90分×15回の授業



選定区分：ウ 多様な背景を持った学生の受入れへの配慮

多様な背景を持った学生の受入れへの配慮①

大学名	概要	目的	入学後の学びの支援体制	成果の検証	大学入学者選抜における好事例選定委員会コメント
東京電機大学 参照： 総合型選抜（はたらく学生） https://www.dendai.ac.jp/about/admission/undergraduate/hataraku.html	● 総合型選抜　（はたらく学生） ● 工学部第二部 ● 募集人員 若干名（学部全体の募集人員は180人） ● 入学者４人 ● 入学後、**昼間は本学「学生職員」として働きながら、夜間は工学部第二部（夜間部）で学ぶ**ことができ、**入学検定料は免除**。	● **学ぶ意欲があり、働く意欲もあるが、経済的な事情等で大学への進学に不安**を抱えている受験者を積極的に支援。	● 特別な支援は行っていない。なお、当該選抜では、筆記試験にて数学の学力を測り、学力が一定以上ある者（学業と両立できるくらい）を選定。	● 個別面接により、志望学科での学びのための適性と学生職員としての適性を測った上で入学するため、学習意欲、就労意欲とも高い学生を受け入れることができる。（個別面接は、教員２名と事務職員１名で実施）	● 学内で勤務して給料を得られる点で、学業との両立がしやすく、**他の大学にとっても好事例となり得る**。 ● **最大４年間の勤務が可能であることや、給与の見込み額が具体的に書かれており、受験生にとって参考になる情報が提供**されている。**動画での説明も具体的**で、昼間の業務と夜間の学業の生活パターンをイメージしやすいと思われる。 ● 今後、入学者に求める能力を実際に測定できていることを示す検証が行われることを期待する。

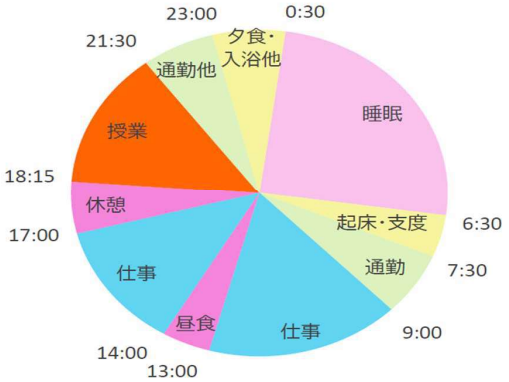
学生職員について

- 業務内容　各学部・学科実験室などの準備、管理など
- 勤務先　東京千住キャンパス：東京都足立区千住旭町5番（システムデザイン工学部、未来科学部、工学部、東京千住キャンパス内の各部署）
- 勤務期間　原則、単年度契約として最大4年間の勤務が可能
- 給与　・1年次月額見込額 140,760円（過年度における週6日勤務の場合の実績）
  ・1年次年収見込額 1,790,000円（過年度における週6日勤務の場合の実績）
  ・賞与および昇給、退職金制度あり

多様な背景を持った学生の受入れへの配慮②

大学名	概要	目的	入学後の学びの支援体制	成果の検証	大学入学者選抜における好事例選定委員会コメント
東洋大学 参照： 「独立自活」支援推薦入試 https://www.toyo.ac.jp/nyushi/undergraduate/evening/self-support/	**＜学校推薦型選抜（「独立自活」支援推薦入試）＞** ● 文学部・経済学部・経営学部・法学部・社会学部・国際学部　第２部・ｲﾌﾞﾆﾝｸﾞｺｰｽ(夜) ● 募集人員 8人 （各学科１人） ● 入学者４人 ● 入学後、**日中は本学事務局で働きながら、夜間に学ぶ**ことができ、**入学検定料は免除**。 ● 地理的な受験機会格差の是正のため、**オンラインによる受験も可能**。	**＜学校推薦型選抜（「独立自活」支援推薦入試）＞** ● 本学の創立者・井上円了は**「余資なく優暇なき者のために教育の機会を開放する」**という趣旨のもと、前身である「哲学館」を創立したが、その志に沿った入試を導入。	**＜学校推薦型選抜（「独立自活」支援推薦入試）＞** ● **奨学金として授業料等半額相当額を４年間免除**（毎年度継続審査あり）。 ● 希望者は**提携学生寮への入居**が可能。	**＜学校推薦型選抜（「独立自活」支援推薦入試）＞** ● 2014年度入試から実施し、2018年３月に第１期生が卒業したが、**７名の入学者のうち、３名が学科主席**で卒業。 ● 2021年３月に卒業した４期生のうち１名が本学職員として採用されるなど、学習と社会人生活の両立がなされたと考えられる。 ● また、この入試方式は、経済面に加え、地理的な受験機会に配慮していることから、**関東圏以外からの志願者の割合が多い**傾向となっている。	● **独自性が高い**。 ● 今後、入学者に求める能力を実際に測定できていることを示す検証が行われることを期待する。

＝1日のスケジュール（参考例）＝



＝1か月の家計（参考）*非常勤嘱託・寮生活の場合＝

多様な背景を持った学生の受入れへの配慮③

大学名	概要	目的	入学後の学びの支援体制	成果の検証	大学入学者選抜における好事例選定委員会コメント
東洋大学 参照： 入試情報サイト https://www.toyo.ac.jp/nyushi/	**＜外国にルーツを持つ生徒対象入試＞** ● 社会学部（国際社会学科） ● 募集人員 若干名 ● 入学者６人 ● **外国籍を有する者、もしくは日本国籍を取得して６年以内の者**であり、かつ入国後の在留期間が通算で９年以内の者（小学校入学前の在留期間を除く）が対象。	**＜外国にルーツを持つ生徒対象入試＞** ● 外国にルーツを持つ子どもの今後の増加が見込まれ、かれらは母国との架け橋となるグローバル人材としての活躍が期待されているが、**大学進学への支援体制が不十分**。 ● 外国にルーツを持つ生徒を募集することで、**学びの場で多文化共生を実践**し、日本人学生へのポジティブな効果を期待。	**＜外国にルーツを持つ生徒対象入試＞** ● 留学生向けの**「日本語サポート」「日本語プログラム」の受講**が可能。 ● 外国にルーツを持つ学生の**交流会の実施**。 ● **ラーニングサポートセンターによる学修支援**。 ● 高大連携や、市民団体などと連携した支援の試みを積極的に実施。	**＜外国にルーツを持つ生徒対象入試＞** ● **成績や履修状況について追跡調査を実施**。 ● 実施している大学が少なく、高校現場に浸透していないため、志願者が少ない。	● **大学全体にダイナミックな動き**を感じる。
福岡県立大学 参照： 入試情報 https://www.fukuoka-pu.ac.jp/admission/index.html	● 全国児童養護施設推薦特別選抜 ※R4入試から開始 ● 看護学部 ● 募集人員 若干名 （学部全体の募集人員は90人） ● **児童養護施設に入所している者**を対象。	● 厚生労働省の調査では、全高校卒業者の大学・短大・専修学校などへの進学率に比べ、**施設出身者の進学率はまだ低い**。 ● 将来看護職を目指す高校生に幅広く門戸を広げるため。	● 入学考査料・入学料を免除するだけでなく、本学の寮に入寮を希望する者は、**寮使用料**（光熱費等は除く）**を最初の2年間について免除**できる制度となっており、入学後も経済的な負担がかからないよう配慮。	● 募集開始後に複数の問合せがあり、また遠方からの志願者があった。	● 若干名ではあるが、**他の大学に例をみない試み**。 ● 経済的支援も考慮しており、これまであまり日の当たらなかった対象者に入試の機会を提供する入試として多くの大学に知って頂きたい。 ● 今後、入学者に求める能力を実際に測定できていることを示す検証が行われることを期待する。